

令和元年度 第3回
松川町地域公共交通対策協議会 次第

日時 令和元年12月25日(水) 午前10時00分
場所 松川町役場 2階 協議会室

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 協議事項

- (1) 令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価(案)について <P 3～5>
- (2) 運行改善策について <P 6～7>
- (3) 令和2年度事業計画(案)について <P 8>

4. その他

- (1) 令和元年度事業中間報告 <P 9～10>
- ・デマンドタクシー実証運行開始に向けた準備状況について
 - ・乗り方教室、説明会等におけるバスの周知について
- (2) 新井北部地籍運行ルートの変更を求める要望について <P 11～12>
- (3) 大島区からの無料化を求める要望について <P 13～14>

5. 閉 会

松川町地域公共交通対策協議会名簿

【敬称略・順不同】

所属団体等	役職	氏名	備考
松川町	町長	宮下 智博	会長
松川町社会福祉協議会	会長	水野 一昭	副会長
伊那バス株式会社	代表取締役	藤澤 洋二	
丸茂自動車有限会社	代表取締役	片桐 実	
大島地区代表	古町区長	中川 初俊	
上片桐地区代表(区長会長)	上片桐区長	大澤 今男	
生田地区代表	部奈区長	林 貞喜	
松川町商工会	会長	小澤 文人	
松川町女性団体連絡協議会	理事	宮島 和子	
松川町福祉を考える会	会長	原 節子	
国土交通省北陸信越運輸局 長野運輸支局	首席運輸企画 専門官	芦澤 千恵子	
長野県南信州地域振興局	局長	土屋 智則	
長野県飯田建設事務所	所長	丸山 義廣	
飯田警察署	署長	福澤 政徳	
松川町建設課	課長	小沢 雅和	
伊那バス労働組合	自動車対策部長	唐木 達也	
松川町教育委員会	教育長	高坂 敏昭	

事務局

松川町副町長	久保 友二	幹事長
松川町まちづくり政策課長	小木曾 雅彦	事務局長
松川町まちづくり政策課リニア・公共交通係長	佐々木 保	事務局員
松川町まちづくり政策課リニア・公共交通係	河野 通祥	事務局員

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 元年 12月 日

協議会名:松川町地域公共交通対策協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
伊那バス(株)	・大島循環(午前1便) 西山～伊那大島駅 ・大島循環(午前2便) 伊那大島駅～キラヤ前 ・大島循環(午前3便)(午後便) 役場前～キラヤ前	平成30年度の調査結果をもとに、運行形態等について検討を行った。 共通定期券の発売を開始し、町内の通勤・通学者の利用促進を図った。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 4,000人目標のところ2,995人であった。定期的に利用する高齢者が減少したことが原因として考えられる。	聞き取り調査や乗り込み調査を引き続き行い、住民ニーズを掴む。 フリー降車区間を拡大し、利用者の利便性の向上を図る。需要が多ければ、フリー乗降への拡大を検討する。
伊那バス(株)	・上片桐循環(午前1便) 役場前～役場前 ・上片桐循環(午前2便)(午後1・2便) 役場前～キラヤ前	平成30年度の調査結果をもとに、運行形態等について検討を行った。 共通定期券の発売を開始し、町内の通勤・通学者の利用促進を図った。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 4,500人目標のところ3,836人であった。定期的に利用する高齢者が減少したことが原因として考えられる。	聞き取り調査や乗り込み調査を引き続き行い、住民ニーズを掴む。 フリー降車区間を拡大し、利用者の利便性の向上を図る。需要が多ければ、フリー乗降への拡大を検討する。
伊那バス(株)	・大島・上片桐通学便 役場前～伊那大島駅	平成30年度の調査結果をもとに、運行形態等について検討を行った。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 6,000人目標のところ3,860人であった。対象児童・生徒の保護者による送迎が想定より多く、バス利用が進まなかったことが原因として考えられる。	中学3年生の保護者向け説明会を開催し、バスの利用や安価な定期券のPRを行う。
丸茂自動車(有)	・生田循環峠部奈線(午前1便) 社協前～キラヤ前 ・生田循環峠部奈線(午前2便) 下峠～清流苑 ・生田循環峠部奈線(昼便) 社協前～新井 ・生田循環峠部奈線(午後1便) 社協前～下峠 ・生田循環峠部奈線(午後2便) キラヤ前～社協前	平成30年度の調査結果をもとに、運行形態等について検討を行った。 起伏の激しい生田地区での高齢者の負担軽減と利便性の向上のため、フリー乗降区間を全域に拡大した。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 3,500人目標のところ3,013人であった。定期的に利用する高齢者が減少したことが原因として考えられる。	デマンドタクシーのPRを積極的に行い、定時定路線では利用がままならなかった高齢者の利用を積極的に促す。 デマンドタクシーの本格運行に向け、実証運行期間中に乗り込み調査やアンケート調査を実施し、運行形態などの改善を検討する。
丸茂自動車(有)	・生田循環中山柄山線(午前1便) 社協前～キラヤ前 ・生田循環中山柄山線(午前2便) 石橋～清流苑 ・生田循環中山柄山線(昼便) 社協前～新井 ・生田循環中山柄山線(午後1便) 社協前～石橋 ・生田循環中山柄山線(午後2便) キラヤ前～社協前	平成30年度の調査結果をもとに、運行形態等について検討を行った。 起伏の激しい生田地区での高齢者の負担軽減と利便性の向上のため、フリー乗降区間を全域に拡大した。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 3,000人目標のところ2,370人であった。定期的に利用する高齢者が減少したことが原因として考えられる。	デマンドタクシーのPRを積極的に行い、定時定路線では利用がままならなかった高齢者の利用を積極的に促す。 デマンドタクシーの本格運行に向け、実証運行期間中に乗り込み調査やアンケート調査を実施し、運行形態などの改善を検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 元年 12月 日

協議会名:	松川町地域公共交通対策協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>長野県下伊那地域の最北にある松川町は、面積72.79㎡、人口13,223人(令和元年4月1日時点)で、天竜川が町の中心を流れる東西に長い町である。</p> <p>町には、大きく分けて天竜川東側の山間部にある生田地区、中心部を含む大島地区、その北側の上片桐地区の3地区がある。町の中心部に商店街、JR駅、公共施設等が集中するが、それぞれの地区から中心部までの距離が遠く、河岸段丘によって形成された起伏の激しい地形のため、移動の負担が大きく、公共交通の維持が必要とされている。</p> <p>誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりのためには、住民生活の中で必要とされている通学、通院、買い物交通手段の確保が必要である。そのために誰もが利用しやすい公共交通の整備を目指し、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。</p>

令和元年度（平成30年10月～令和元年9月） 路線別利用状況

【単位：人】

路線名		平成30年10月～令和元年9月 利用者数（人）				比較（R元－H30）		備考
		R元年度		H30年度		総利用人数	1 便当り	
		総利用人数	1 便当り 利用人数	総利用人数	1 便当り 利用人数			
通常便	M 8 大島循環	2,995	2.5	3,635	3.0	▲ 640	▲ 0.5	
	M 2 上片桐循環	3,836	4.0	3,681	3.8	155	0.2	
	M 4 生田循環 峠部奈線	3,013	4.2	2,967	4.1	46	0.1	
	M 5 生田循環 中山柄山線	2,370	3.17	2,432	3.23	▲ 62	▲ 0.06	
通学便	M 6 上片桐・大島通学便	3,860	3.6	4,618	4.3	▲ 758	▲ 0.7	
	M 3 部奈線	7,140	6.7	7,644	7.1	▲ 504	▲ 0.4	
	M 7 生田線	6,273	5.9	7,644	7.0	▲ 1371	▲ 1.1	
合計		29,487	-	32,621	-	▲ 3,134	-	

運行改善策

□M8 大島循環、M2 上片桐循環、M4・M5 生田循環 共通

① 利用者の現状・意見

- ・大島・上片桐地区は、生田地区に比べバスの路線数が多く、また停留所の数も多いが町の西側全域に渡るため、人によっては自宅から停留所までの距離が遠く、乗降車するのに不便である。また、買い物などをした後の荷物を持つての帰宅が負担となっている。

② 担当者改善提案

- ・大島循環に設定されている「フリー降車区間」を「フリー乗降区間」に変更し、路線全体に拡大することができないか。
- ・上片桐循環と、大島地区を運行する生田循環の全域に、新たに「フリー乗降区間」を設定できないか。

③ 運行事業者意見

- ・大島・上片桐地区は、生田地区に比べ交通量や歩行者が多く、停車をする箇所によっては乗降する利用者の危険につながる可能性がある。また、そのような状況でのフリー乗降は、利用者の見逃しにもつながり、苦情が増加することが予想される。フリー降車であれば車内の確認のみであるため、フリー降車から始め、需要によって段階的にフリー乗降を検討していくのはどうか。
- ・フリー降車区間を設定するにしても、交通量が多い箇所については、安全確保のため避けてほしい。

④ 警察署意見

- ・フリー降車とする対象路線は、1便毎の利用者が少なく、停留所以外での降車に伴う停車による交通流の障害は極めて低く、利用者の多くが公共交通しか移動手段のない交通弱者である実態から、利用者の負担軽減及び新規利用の促進を図るフリー降車の公益性が高いと認められるため、運行事業者と安全対策を講じた上で運行していただきたい。

⑤ 町の対応方針

- ・大島・上片桐地区を運行する、大島循環、上片桐循環、生田循環の各路線の内、特に交通量の多い国道や県道、広域農道（フルーツライン）、商店街を除く箇所に「フリー降車」区間を設定する。
- ・利用状況と需要を把握し、バス停の新設やフリー乗降への移行などを検討する。

バス路線運行図

大島循環・上片桐循環・生田循環

青線：フリー降車設定区間

赤線：フリー降車不可区間

通学便は対象外

利用できます。



表 ※全てのコミュニティバス路線共通です。

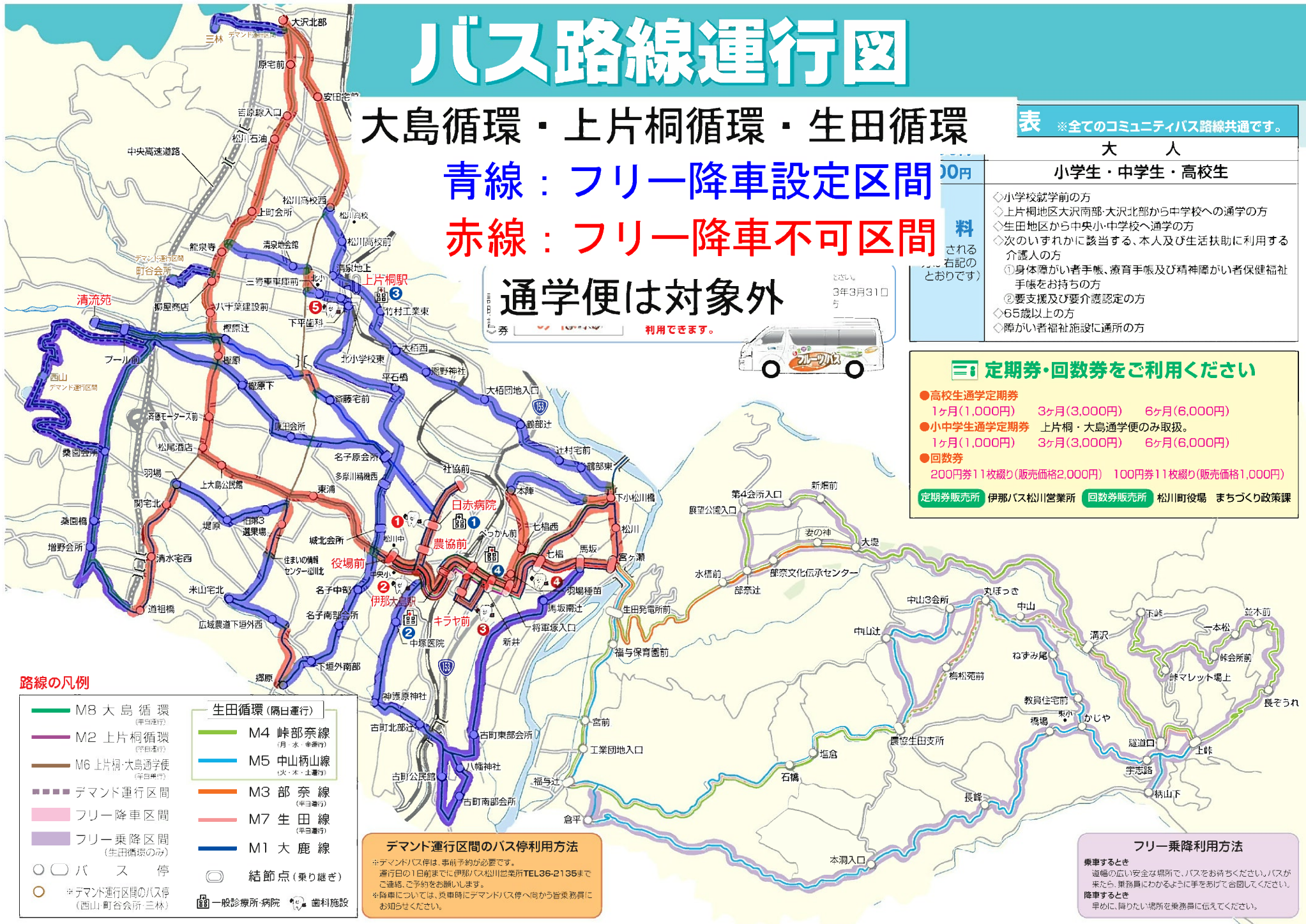
大人
小学生・中学生・高校生

- ◇小学校就学前の方
- ◇上片桐地区大沢南部・大沢北部から中学校への通学の方
- ◇生田地区から中央小・中学校へ通学の方
- ◇次のいずれかに該当する、本人及び生活扶助に利用する介護人の方
 - ①身体障がい者手帳、療育手帳及び精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方
 - ②要支援及び要介護認定の方
- ◇65歳以上の方
- ◇障がい者福祉施設に通所の方

定期券・回数券をご利用ください

- 高校生通学定期券
 - 1ヶ月(1,000円) 3ヶ月(3,000円) 6ヶ月(6,000円)
- 小中学生通学定期券 上片桐・大島通学便のみ取扱。
 - 1ヶ月(1,000円) 3ヶ月(3,000円) 6ヶ月(6,000円)
- 回数券
 - 200円券11枚綴り(販売価格2,000円) 100円券11枚綴り(販売価格1,000円)

定期券販売所 伊那バス松川営業所 回数券販売所 松川町役場 まちづくり政策課



路線の凡例

- M8 大島循環 (平日運行)
- M2 上片桐循環 (平日運行)
- M6 上片桐・大島通学便 (平日運行)
- デマンド運行区間
- フリー降車区間
- フリー乗降区間 (生田循環のみ)
- バス停
- ※デマンド運行区間のバス停 (西山 町台会所 三林)
- 生田循環 (隔日運行)
- M4 峠部奈線 (月・水・金運行)
- M5 中山柄山線 (火・木・土運行)
- M3 部奈線 (平日運行)
- M7 生田線 (平日運行)
- M1 大鹿線
- 結節点(乗り継ぎ)
- 一般診療所・病院
- 歯科施設

デマンド運行区間のバス停利用方法

※デマンドバス停は、事前予約が必要です。
 ※運行日の1日前までに伊那バス松川営業所TEL36-2135までご連絡、ご予約をお願いします。
 ※降車については、乗車時にデマンドバス停へ向かう乗務員にお知らせください。

フリー乗降利用方法

乗車するとき
 道幅の広い安全な場所へ、バスをお待ちください。バスが来たら、乗務員にわかるように手をあげて合図してください。
 降車するとき
 早めに、降りたい場所を乗務員に伝えてください。

令和2年度 事業計画(案)

路線名		運行事業者	令和2年度の運行計画 ■…運行内容に変更(案)あり
通 常 便	M8 大島循環	伊那バス	<ul style="list-style-type: none"> ■フリー降車区間を拡大 ■停車停留所に下小松川橋を追加
	M2 上片桐循環	伊那バス	<ul style="list-style-type: none"> ■フリー降車区間を新たに設定 ■松川高校西～安田宅前に停留所(清北(仮))を新設(第1回協議会承認済) ■本陣～下小松川橋間を現ルート(町道洞新線)から町道9号線に変更 <ul style="list-style-type: none"> ・下小松川橋停留所を移設 ・本陣～下小松川橋間に停留所(新井北部(仮))を新設 ※ルート変更に伴う料金の変更はなし
	M4 生田循環 峠部奈線	丸茂自動車	<ul style="list-style-type: none"> ■フリー降車区間を新たに設定 ■デマンド試験運行(令和2年1月6日～令和2年6月30日) [■デマンド本格運行(予定)(令和2年7月1日～)]
	M5 生田循環 中山柄山線	丸茂自動車	<ul style="list-style-type: none"> ■フリー降車区間を新たに設定 ■デマンド試験運行(令和2年1月6日～令和2年6月30日) [■デマンド本格運行(予定)(令和2年7月1日～)]
通 学 便	M6 上片桐・大島通学便	伊那バス	・前年度と同様の内容で運行
	M3 部奈線	伊那バス	・前年度と同様の内容で運行
	M7 生田線	伊那バス	・前年度と同様の内容で運行

デマンドタクシー実証運行開始に向けた準備状況

○住民向け説明会

【実施内容】

- ・方法：生田地区のサロンや自治会、区会などへ出向き、デマンドタクシーの利用の仕方について説明
- ・周知：生田全戸へチラシを配布
生田循環線の車内、役場生田支所、生田郵便局へ案内チラシを設置

・実施状況（20回）

開催日		対象	参加者数
10 月	27日（日）	生東サロン（中山ミツバツツジの会）	10人
	28日（月）	説明会打合せ/生田3区三役	9人
	29日（火）	福与サロン（あゆみ会）	10人
	30日（水）	社協行事（一人暮らし交流会）	45人
11 月	9日（土）	生東サロン（生東森の会）	20人
	16日（土）	生東区総務委員会（自治会長）	10人
	17日（日）	長峰サロン（めぶき会）	13人
	21日（木）	福沢自治会	20人
	22日（金）	中山1自治会	9人
	24日（日）	峠3自治会	10人
	29日（金）	塩倉自治会 柄山サロン（ぬくもり会）	6人 11人
12 月	7日（土）	中山自治会組長	9人
	8日（日）	峠2自治会	12人
		寺沢自治会	25人
	12日（木）	間沢自治会	28人
	13日（金）	松川町民生児童委員会	29人
	15日（日）	中の村自治会	23人
	22日（日）	部奈サロン（部奈ふれあいサロン）	35人
	24日（火）	峠1自治会	5人
合 計			339人

※デマンド登録者数：164名（12月25日現在）

乗り方教室・説明会等におけるバスの周知について

○バスの乗り方教室

【実施内容】

- ・方 法：町の社会福祉協議会主催の「一人ぐらし高齢者の会」に合わせて開催

- ・実施日：生田地区／11月19日（火）、参加者17名
上片桐地区／11月28日（月）、参加者6名
大島地区／12月11日（水）、参加者9名

- ・内 容：1）まつかわフルーツバスの現状説明
2）バスの利用の仕方、時刻表の見方、マナー等
3）バスの乗車体験
4）デマンドタクシー実証運行説明（生田地区）

○説明会等におけるバスの周知

【実施内容】

- ・方 法：町が高齢者を対象に行っている各種説明会へ出向き、バスをPR

- ・内 容：（1）後期高齢者説明会（4月～11月現在）
実施回数/8回、参加者数/70名
（2）介護保険制度等説明会（4月～12月現在）
実施回数/9回、参加者数/61名
（3）一人暮らし全体交流会（10月30日）
実施回数/1回、参加者数/45名

○中学生の保護者に対する説明会（予定）

【実施内容】

- ・方 法：参観日など保護者が集まる日に中学校へ出向き、バスをPR

- ・実施日：2月予定

- ・内 容：1）まつかわフルーツバスの現状説明
2）バスの利用の仕方、時刻表の見方
3）通学定期券のPR

	町長	副町長	課長	係長	課員
各 議 印	宮下	森	小澤	栗木	河野



令和元年11月20日

松川町長 宮下智博 様

新井北部自治会

自治会長 田中利茂



コミュニティバス路線の変更と停留場設置のお願い

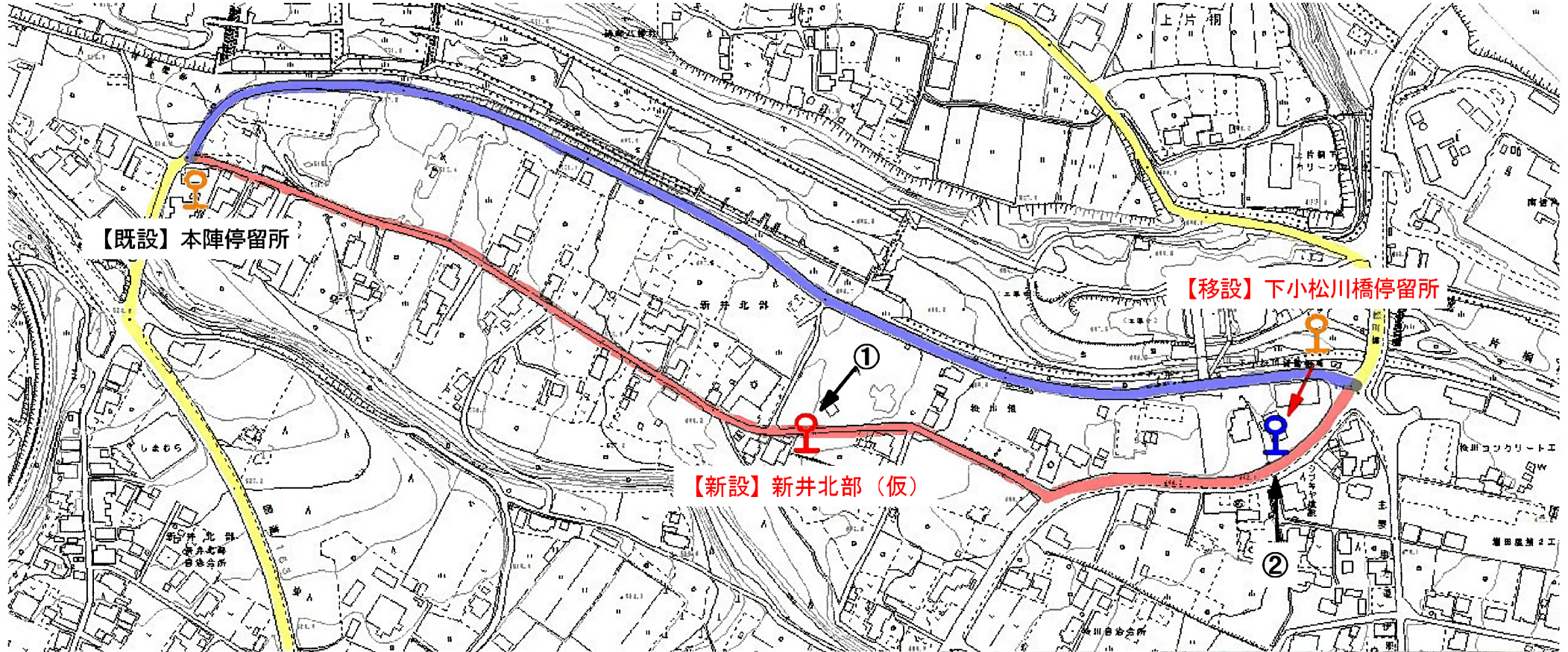
日頃は当自治会の事業に対しまして、ご支援を賜り感謝申し上げます。

現在、当自治会内を走るコミュニティバスは、片桐松川沿い（町道洞新線）の人家も少ないルートを走っているのが現状です。

つきましては、人家の多い1本南側のルート（町道9号線）へ変更していただけますようお願いいたします。また、合わせて別紙の付近へ、乗降するためのバス停の設置をお願いいたします。

（2月開催予定の町地域公共交通対策協議会に諮ります。）

本陣～下小松川橋間 ルート変更及びバス停の移設・新設について



青線：現ルート（町道洞新線）

赤線：新ルート（町道9号線）



合 議 印	町長	副町長	課長	係長	課員
	宮下	久保	小曾	俵木	河野

教育長



2019 -12- 16



松川町長 殿
公共交通対策協議会殿

コミュニティーバス通学利用者代表
上大島区元区長 熊谷 彰三
松川町行政の平等・公平を求める会

1. 委員の意見で歩く事の大切さを言っていますが生田、上片桐の一部の無料バス利用者は歩かなくても良いと言われるのでしょうか。結局のところバスを利用する立場になり考慮してくれた返答とは思えません。

2. 当該地域の距離は、概ね適正とはどういう意味なのでしょう。元区長の熊谷宅より小、中学校までの距離は、5.4キロありますがそれは、含まれるのでしょうか。そもそも上片桐でのバスの利用の線引きは、明確に出来ているにもかかわらず、増野、西山、桑園では曖昧にしかできない理由を教えてください。さらに生田地域で学校より一番近い距離のお子さんは、何キロなのでしょう。

3. 平成30年5月提出の要望書に添付しました700名近くの署名の意味はなかったのでしょうか。（当時各区長、PTA会長、育成会長も署名しています。）現町長は、署名に目を通して頂けたのでしょうか。

4. 負担軽減をして頂けているとの事ですが、元区長の熊谷宅では、3人の子供がいるので、一年で3万6千円、3人が中学卒業の頃には、32万4千円の支出になります。その金額は、負担が少ないと言えるのでしょうか。しかも軽減されるまえは、もっと負担が大きかったです。

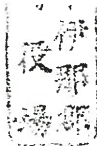
5. 以上を踏まえて、合併の条件（生田、上片桐）と言う言い訳を常にしてこられていますが、それ以前に公平性を考えれば、生田、上片桐地区の家庭にも月額1000円のバス料金を負担して頂きたいと思えます。

6. 近隣市町村又長野県下で、有料・無料の格差を付けている所がありますか。

尚、令和元年6月17日（元松第44号）「小中学生のコミュニティーバス利用の無料化を求める要望書」に対しての疑問、意見でありますので教育の機会均等法もかんがみ再度検討をお願い申し上げます。

12/16 13:20頃

熊谷様が直接持参されました。河野



元松政第 44 号
令和元年 6 月 17 日

大島区長
大島育成会長 様

松川町長 (松川町地域公共交通対策協議会) 長 野 通 祥
宮下 智博 下伊那郡 松川町 長 之 印

「小中学生のコミュニティバス利用の無料化を求める要望書」への回答

平素は、町政に対しましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

まずもって、このことにつきまして回答が遅くなったことをお詫びいたします。

平成 30 年 5 月 24 日付けでご提出のあった標記につきましては、昨年 5 月 31 日開催の松川町地域公共交通対策協議会 (第 1 回)、また、本年 5 月 28 日開催の松川町地域公共交通対策協議会 (第 1 回) においてそれぞれ議題提案し、協議いただいております。

つきましては、その際、協議会委員からいただいたご意見等を踏まえ、下記のとおり回答いたします。

〈委員から出された意見等〉

- ・心身の「身」を作るという点から、歩くことにも意味がある。
- ・当該地域の通学距離は、概ね適正な範囲内にある。

記

〈回答〉

現状維持でのご理解をお願いいたします。

〈理由〉

1. これまでの要望を受け、平成 27 年 4 月、平成 29 年 10 月の 2 回にわたり定期券料金を値下げし負担軽減を図ってきた。
2. 歩くことを通して、子供たちの心身の成長を図りたい。

担当：

松川町地域公共交通対策協議会事務局

[松川町役場まちづくり政策課内]

(係長) 佐々木 保 (担当) 河野 通祥

TEL:0265-36-7014 FAX:0265-36-5091

E-Mail:seisaku@town.matsukawa.lg.jp

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.